



「つながる・つなげる・広がる」 ～キャリア教育支援センターの魅力～

寺迫小学校 校長 曾我部 美佳



私は4月に寺迫小学校に赴任しましたが、日向市での勤務は初めてです。そのため、日向市についての情報や知識が十分ではありません。そんな折、本校の先生が研修の一環で日向市内の企業に赴くこととなり

ました。またとない異業種での研修を充実したものにした。しかし、どんな企業があるのか。悩んだ末に、相談させていただいたのが「キャリア教育支援センター」でした。状況を説明すると、企業様への橋渡しを快く引き受けていただき、あっという間に研修先とつながることができました。

先日、研修先の企業様へ伺い、打合せを行いました。研修終了後も、本校と連携し、児童が中心となる教育活動へとつなげていきたいとお話をいただきました。企業の皆様と共に、子ども達のキャリア教育について考える、夢の広がる貴重な時間となりました。市内のどこで学んでも、どこに勤めても、キャリア教育について支援いただけることを実感し、キャリア教育支援センターの魅力を感じた出来事でした。

「未来への道しるべ」

日向市立坪谷小学校 校長 荒神 雅彦



子どもの頃、あるテレビドラマを見て感動し、教師になろうと思った。しかし、現実はいぶ違った(笑) 坪谷小学校に赴任し、若山牧水について調べていくうちに牧水先生がいかに人間的であり、悩み多き生涯を送ったかがよく分かった。その苦しい内面を五七五七七の31文字に自分の魂をぶつけるが如く飾らずに表現しているところが、牧水先生が国民的歌手として愛される所以ではないかと思う。何のために学ぶのか、何のために生きるのか、何のために働くのか、悩み多き人生において子ども達にはやはり道しるべが必要であろう。「視野は広く心は深く 腰は低く」私の好きな言葉である。未来への道しるべとして、日向市の「よのなか先生」の取組は子どもの視野を広げてくれるものである。もし自分が日向市に生まれ、たくさんの「よのなか先生」に出会っていたら、今頃は何をしているだろうと考えるとワクワクする。ただ、その場合、この原稿も存在していないかもしれないが…「よのなか先生」の取組に今後ますます期待するとともに、自校でも積極的に活用を図っていきたい。

「学校が担うキャリア教育」

日向市立細島小学校 校長 藤原 裕司



私のキャリア形成には、自営業だった両親の働く姿や顧客と接する姿、家族の役割やふれあいなどが大きく影響しています。現在は仕事や家族形態、価値観等が多種多様化しており、私のように親の働く姿に接することのできる子どもは少ないようですし、子どもたちも少年団活動や習い事で忙しい日々を過ごしています。また、子どもたちが将来を考える上で、5年後、10年後が見通しにくい社会情勢です。

そのような状況の中、日向市キャリア教育支援センターでは「日向の大人はみな子供たちの先生」のスローガンのもと様々な取組をしていただいています。そして、その取組は日向の子どもたちにとって職業選択の際の大きな材料になったことと思います。

本校においても、日向市キャリア教育支援センターの取組と関連させ、学級での係や当番活動、行事等での役割分担、集団登校や挨拶の励行、学級活動での指導など、全教育活動をキャリア教育の視点をもって取り組むことで、子どもたち一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた取組を推進していきたいと思ひます。

「キャリア教育の原点として」

日向市立財光寺小学校 校長 原口 靖

「国際人になるには故郷を知ること」これは高校の講演会で大学の先生が言われた一言です。都城市で霧島おろしの寒風の中、霧島に向かって自転車をこぎ学校に通っていた高校の時。今から40年あまり前、当時は国内外の大都市の様子を取り上げた番組が数多くありました。高校生の私にとっては都城よりもテレビに映る都会や海外の光景が華やかに見え、その地への憧れを感じていました。そのように感じていた自分にとっては、大学の先生の一言はまったく心に響くものではありませんでした。

大人になって社会人として多くの方々と話す中で聞かれるのは都城市(自分の故郷)のことです。しかし、本当に都城市のことを話しているのか。自分の故郷に誇りをもって話しているのかと疑問に思え、あの一言を少しでも真剣に考えていれどと感じています。

教職に就いて30年以上を県北で過ごし、教える立場として日向市のことを学び、子供たちに伝え、一緒に考えてきました。子供たちに「ふるさと学習」として日向市を愛する心を育もうとしてきました。国際人と言わないまでも、一人の社会人として日向市のことを自信をもって言える大人になってほしいと願ひながら、これからも学校で「ふるさと学習」に取り組んでいきたいと思ひています。





「食育についての
ご案内」

南日本ハム株式会社
施設環境室設備管理課
石黒 雄介
総務人事部総務人事課
安藤 旭信



皆様こんにちは南日本ハム株式会社食育担当です。

南日本ハム株式会社は、日向市との関わりが深く日向市誘致企業第一号として創業60年を超すことができました。日向市の皆様には紙面をお借りして感謝申し上げます。

さて、日本ハムグループでは、地域社会との共存・共栄を図り、良き企業市民としての役割を果たすことにより、持続可能な社会の発展に貢献することを行動基準としており、今後もグループ全体として事業活動を通じた社会への貢献はもとより、食とスポーツを通じて社会の健全な発展に

貢献してまいります。

特に弊社では、地域に根差した企業として地元への食育活動・教育CSRを2012年から実施しており、「人が未来をつくるのであれば、人をつくる食への教育は人づくり地域づくりの重要な軸である」と捉えております。

そのような観点からも持続可能な社会の実現に向け、「地域の宝」である子供たちへの教育支援は、地元企業の重要な責任のひとつであり、積極的な教育CSRは未来への投資であると考え、現在まで宮崎県内を中心とした食育活動を行って来たところです。

しかしながらコロナ過という現状から、2020年以降は目立った活動を行うことができませんでしたので、今年度より担当者を新たにし食育活動を再スタートをさせていただきます。

今後は、「たんぱく質について」や「食べることは生きること」などの各種テーマにそって積極的に活動してまいりますので、各小中学校におかれましては是非ご活用ください。

食育活動の依頼先

- ◆南日本ハム株式会社 54-4186 安藤または石黒
- ◆日向市キャリア教育支援センター 57-3522 迄

教育委員会



「塩見小学校児童とpepperとの
対面式の実施について」



この度、社会貢献事業の一環として、SoftBankロボティクスのAIロボットであるpepper 1台を株式会社旭化成より塩見小学校へ貸与いただくことになりました。

そこで、プログラミング教育を中心として、児童生徒が積極的にpepperを活用していくために、4月27日に全校集会において児童とpepperとの対面の機会を設けました。

児童生徒は、pepperに話しかけたり、頭をなでたりして、興味津々に接していました。

今後は、朝や下校時間のあいさつ運動や、防災教室等においてもpepperを活用していく予定です。

